多賀城政庁復元整備に向けた説明会(10/26開催)における質疑応答の概要

	県民からの質問	当課回答
1	• 現在は奈良・平安時代の礎石をそのまま展示しているが、政庁を復元する際には、礎石はどのように取り扱われるのか。復元した後も礎石が見学できればよいと思う。	• 今後、復元整備の基本計画・設計を行うため、現状では具体的にどのように設計するかまでは決まっていない。 • これから建物の設計を行うなかで、どのような復元が妥当か検討していきたい。
2	• 令和3～6年の創建1300年記念事業で約90億円の経済効果があったとのことだが、政庁復元整備事業による経済効果は、どの程度見込んでいるのか。	• 文化財課としては、政庁復元によって多くの方々に多賀城跡へ来ていただき、歴史を楽しく学びながら遺跡に興味・関心をもってもらうことで、今後の保存・活用につなげたいと考えている。 • 来跡者数については、市民参加型のイベントや様々な取り組みを通じて来跡者数を増やすことにより、その結果として経済波及効果を生み出せると考えている。 • 具体的な数値目標は設定していないが、今後の活用にあたっては、観光戦略課や多賀城市とも連携しながら、誘客促進について検討していきたい。
3	• 復元整備の相乗効果にある人材育成は、どのようなことを考えているのか。	• 子供たちに多賀城の歴史や東北古代史への理解を深めてもらうとともに、多賀城を大切に想う気持ちを育んでいきたい。 • 来客者に歴史や価値を伝えるためのボランティアやガイドの力添えが必要であり、そうした人材の育成も考えている。 • 宮大工の不足、技術の伝承が課題となっているため、伝統技術の継承を担う人材育成にも貢献できると考えている。
4	• 次世代型歴史拠点として、実物大空間の圧倒的迫力と最新のICT技術を組み合わせながら、主体的・対話的で深い学びにつなげるとあるが、具体的にどのような技術を使って実現するのか。	• 建物を復元していくまでの過程の3D化や、宮大工による建物の加工・建築の過程をソースにしたいと考えている。 • 具体的な技術は今後の検討課題だが、復元工事の過程をデジタルに残しながら、その場に来て実際に子供たちに体感してもらいたい。 • 復元建物の完成までには時間がかかるため、どのようなものが出来上がるのかをリアルに伝えていく手法としてバーチャルを検討し、その拠点として東北歴史博物館を活用したい。